

機運醸成の取り組みと文化振興

1

機運醸成の取り組み

カウントダウンイベントによる機運醸成

千葉県は、東京2020大会開催に向けて、県内の機運醸成や大会・競技への理解促進を図ることを目的に、東京2020組織委員会、千葉市、一宮町、県経済団体等と連携して、節目ごとにカウントダウンイベント等を実施した。

〔ALL CHIBAで盛り上がろう！

～みんなのTokyo 2020 3 Years to Go!～

（開催3年前イベント）〕

2017（平成29）年には、大会の開催期間に当たる7月24日から9月6日までを「オリンピック・パラリンピック機運醸成期間」と位置づけて開催3年前を記念したイベント「ALL CHIBAで盛り上がろう！～みんなのTokyo 2020 3 Years to Go!～」



オリンピックのカウントダウンカレンダー除幕式（ワールドビジネスガーデン／開催3年前イベント）



東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー フラッグ歓迎イベント



オリンピックのカウントダウンカレンダー除幕式（一宮町／開催3年前イベント）



パラリンピックのカウントダウンカレンダー除幕式（JR海浜幕張駅南口駅前広場／開催3年前イベント）

を開催した。

7月24日、ワールドビジネスガーデンにおいて、森田健作千葉県知事、熊谷俊人千葉市長出席のもとオリンピックのカウントダウンカレンダーの除幕式、アスリートや期待の若手選手によるトークイベントなどを開催。また、本イベントに先立って東京2020組織委員会等の主催で、「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー フラッグ歓迎イベント」が行われ、フラッグツアーアンバサダーの廣瀬隆喜選手（2016年リオデジャネイロパラリンピックボッチャ銀メダリスト）から知事、千葉市長、県内の学生にオリンピックフラッグとパラリンピックフラッグが引き継がれた。

同日、釣ヶ崎海岸では「一宮町サーフィン会場でも盛り上がる！」としてプロサーファーによる競

技実演などのステージイベントが行われたほか、ビーチクリーン、カウントダウンカレンダーの除幕式が催された。

8月25日には、JR海浜幕張駅南口駅前広場でパラリンピックのカウントダウンカレンダー除幕式が行われ、トークイベントなどに加えて県立幕張総合高校合唱部と全盲のシンガーソングライター木下航志さんによるコラボレーションステージも披露された。

〔CHIBAにオリンピック・パラリンピックがやってくる！（開催1000日前イベント）〕

オリンピックおよびパラリンピックの開催1000日前の節目に当たる2017年10月28日および11月29日には、成田国際空港(株)、(公財)日本財団パリリ



記念セレモニー（成田空港／開催 1000 日前イベント）



VRを活用したサーフィン体験会



VRを活用した車いすレーサー体験会



全盲のシンガーソングライター木下航志さんによるライブ

ンピックサポートセンター、競技団体等と連携して、開催1000日前を記念したイベントを開催した。

10月28日、成田空港で「CHIBAにオリンピック・パラリンピックがやってくる！」として千葉交響楽団によるオープニングコンサートや東京2020組織委員会の室伏広治スポーツディレクターを招いた記念セレモニーなどを実施。VRを活用したサーフィン、ボッチャ、車いすレーサー体験会などが催された。また、3年前イベントに続いて1000日前イベントでも全盲のシンガーソングライター木下航志さんによるライブのほか、オリンピック・パラリンピック競技写真パネル展、パラスポーツ絵画作品展なども開催された。

11月29日には、旭市総合体育館で開催された「パラスポーツフォーラム in CHIBA 2017」と連携し

たイベントを実施し、日本財団パラリンピックサポートセンターによる「あすチャレ！ School」としてゴールボールの体験などが行われた。

〔CHIBAにオリンピック・パラリンピックがやってくる！～Tokyo 2020 2 Years to Go!～（開催2年前イベント）〕

2018年7月下旬から9月上旬にかけては、東京2020大会に向けてさまざまなイベントを集中的に実施。オリンピック開催の2年前の節目となる7月24日には、サーフィン会場となる釣ヶ崎海岸と成田空港で記念イベントを開催した。

釣ヶ崎海岸では、記念セレモニーにおいて「おもてなしCHIBAプロジェクト」で育てたひまわりで作られたフラワーアレンジメントの贈呈式を実施し



ひまわり贈呈式（釣ヶ崎海岸／開催2年前イベント）



参加者による「2」の人文字（釣ヶ崎海岸／開催2年前イベント）



セレモニー（成田空港／開催2年前イベント）



テコンドーの競技パフォーマンス（成田空港／開催2年前イベント）



記念セレモニー（イオンモール幕張新都心／パラリンピック開催2年前イベント）



フェンシングのパフォーマンス（イオンモール幕張新都心／パラリンピック開催2年前イベント）

たほか、地元団体による子ども神楽・ダンスや県立一宮商業高校の生徒などによる「東京五輪音頭-2020-」の披露、参加者による「2」の人文字作成などのパフォーマンスを実施した。また、サーフィン日本代表「NAMINORI JAPAN」応援イベントも同時開催した。

成田空港では、テコンドーの競技パフォーマンスやひまわり贈呈式などのセレモニーのほか、参加型

イベントとして「県内開催競技を知ろう！夏休み謎解きラリー『チーバくんからの招待状』（成田空港内探索イベント）が実施された。

次いでパラリンピック開催2年前の節目となる8月25日、26日にはイオンモール幕張新都心においてイベントを開催し、記念セレモニーやフェンシングのパフォーマンスステージなどを実施したほか、「オール千葉おもてなし隊」結成式も行われた。

〔あと500日！オール千葉で応援しよう！
（開催500日前イベント）〕

2019年3月、3月12日のオリンピック開催500日前、4月13日のパラリンピック開催500日前を記念し、「あと500日！オール千葉で応援しよう！」フォーラムをイオンモール幕張新都心で開催。大会や県内開催競技を「オール千葉」で応援する機運を高めるため、県内の経済団体や企業、競技団体に広く周知し、約260人が参加した。同時に、イオンシネマ幕張新都心シアターで「スポーツを応援するチーバくん」のお披露目を行った。

また、千葉県がホストタウンとして登録されているオランダの魅力を紹介するため、「オランダを知ろう！ホストタウンイベント」を実施して事前キャンプ受け入れに向けた機運を高めた。ホストタウンイベントでは、イオンモール幕張新都心において、オランダアスリートの競技写真やホストタウン紹介パネル等の展示、ホストタウンクイズ、「ミッフィー」のオリジナル缶バッジ作り、オランダ衣装体験、オ

ランダストリートオルガン体験などが行われ、VRフェンシング・サーフィンの体験コーナーも設置された。

〔千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！
～Tokyo 2020 1 Year to Go!～
（開催1年前イベント）〕

2019年7月、オリンピック・パラリンピック開催1年前を記念し、イオンモール幕張新都心で「千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！」



記念セレモニー（イオンモール幕張新都心／開催1年前イベント）



「スポーツを応援するチーバくん」のお披露目
（イオンシネマ幕張新都心シアター／開催500日前イベント）



ミライトワ、ソメイティとチーバくんによる県内開催競技紹介ステージ
（イオンモール幕張新都心／開催1年前イベント）



オランダを知ろう！ホストタウンイベント



オランダストリートオルガン体験

としてオープニングセレモニーやステージイベントなどを実施。

セレモニーには、オリンピックレスリング競技4大会連続メダル獲得の吉田沙保里さんや東京2020組織委員会の伊藤華英さん（元競泳女子日本代表）などが出演。ステージでは、東京2020オリンピックマスコット「ミライトワ」とパラリンピックマスコット「ソメイティ」、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」やオリンピック・パラアスリート、オール千葉おもてなし隊オピニオンリーダーの保田圭さんなどが、県内競技や千葉県の取り組みを紹介した。さらに、参加者による県内開催競技応援

メッセージフラッグの作成、競技体験、聖火リレートーチやホストタウン紹介パネルの展示などが行われ、各ブースとも大いに賑わった。

一宮町では、一宮海水浴場で町主催のイベントを開催。プロサーファーの稲葉玲王選手によるトークショー、地元高校生による「東京五輪音頭-2020-」の披露、ビーチクリーン、参加者全員でのじゃんけん大会、参加者による「1」の人文字作成など、会場一体で楽しめるイベントとなった。

これらの機運醸成イベントと併せて、県内開催競技を周知し、さらなる大会機運の醸成を図るため、競技紹介パネルや懸垂幕などによる広報を実施した。



記念イベント（一宮海水浴場／開催1年前イベント）



稲葉玲王選手のトークショー
（一宮海水浴場／開催1年前イベント）



参加者による「1」の人文字（一宮海水浴場／開催1年前イベント）

〔東京2020大会の半年前に合わせた取り組み〕

東京2020大会の1年延期を受け、2021年1月、千葉県は大会の半年前に合わせて、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中でできる取り組みとして、県内開催競技への出場が内定している選手からのメッセージをホームページで紹介。併せて会場周辺の主要駅等で交通案内や観光案内などを行う都市ボランティア7人の大会に向けた思いを動画で紹介した。

また、大会を身近に感じてもらえるよう、新デザインのポスターを制作し、県内JR主要駅、小・中学校、高校、郵便局、道の駅や市町村など約2,400カ所に配布。オリンピック・パラリンピック7競技が行われる幕張メッセに隣接するイオンモール幕張新都心の外壁には、新デザインの懸垂幕を掲げた。海ほたるパーキングエリアにおいては、県内開催8

競技の紹介パネル等の展示を行った。

千葉市における機運醸成の取り組み

千葉市では、県内で開催される競技への理解や関心を高め、機運醸成を図るため、県や一宮町と共同でカウントダウンイベントを開催(p.188参照)。また、トップアスリートによる講演会を行うなど、さまざまな取り組みを推進した。

開催2年前の2018年7月には、千葉都市モノレールにおいて、東京2020エンブレムや県内開催競技をデザインしたラッピング車両の走行を開始(2020年9月まで)。2019年3月には、開催500日前イベントを実施し、市役所や各区役所などに懸垂幕を掲出した。

次いで2019年4月から5月には、千葉市科学館



新デザインのポスター
左は主に県内の小・中学校および高校、
右は主に県内のJR駅に配布



世界に一体のモニュメント

千葉県では、東京2020大会の機運醸成を図るため、ガッツポーズのミライトワ、ソメイティとサーフィンポーズのミライトワのモニュメントを制作。サーフィンポーズのミライトワのモニュメントは、世界に一体だけのものである。

制作したモニュメントは、2021年4月から6月までは千葉県県内に展示。また東京2020大会の開催期間中には、ガッツポーズのミライトワ、ソメイティは幕張メッセに、サーフィンポーズのミライトワは一宮町役場に展示した。

このモニュメントは、大会後も県内での開催を思い起こすことができるよう、競技会場となった幕張メッセと釣ヶ崎海岸にそれぞれ設置を予定している。



ガッツポーズのミライトワ、ソメイティ
(幕張メッセ)



サーフィンポーズのミライトワ

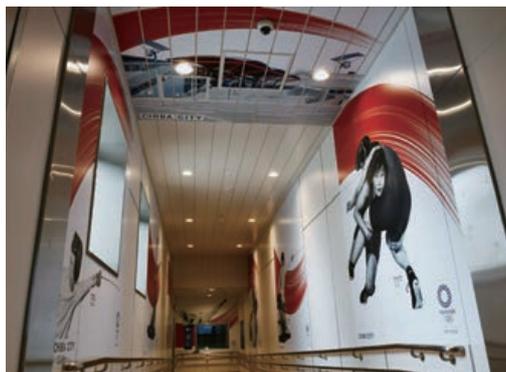
の企画展として「みんなのスポーツ展～ぼくもわたしもアスリート！？～」を開催。アスリートの記録や実際の競技に用いられる用具などの展示に加え、運動が苦手という人でもゲーム感覚で楽しめるコンテンツを用意して来場者を迎えた。

そして開催1年前となった2019年7月には、千葉商工会議所および千葉県と連携し、中心市街地の商店街街路灯に東京2020エンブレムとスポーツを応援するチーバクんのバナーを掲出した。また、市ではJR海浜幕張駅前大型ビジョンをはじめとする各所での大会PR動画の放映を開始するとともに、同年8月には、京成バスの車体ラッピングおよび車内ジャック広告を実施した。

さらに2020年3月には、JR千葉駅・モノレール千葉駅連絡通路およびJR千葉駅東口駅前広場のモノレール支柱に市内開催競技をPRする装飾を施した。



千葉都市モノレールのラッピング車両



県内開催競技の写真をあしらった千葉駅の通路

大会が1年延期された後の2021年6月には、競技会場である幕張メッセ周辺においてラストマイル装飾を実施。同年7月には、リーフレット「TOKYO2020 幕張メッセで7競技開催」を発行し、改めて市内開催競技を紹介したほか、大会に出場する「千葉市ゆかりの選手」の横断幕を千葉市役所連絡通路や区役所に掲出するとともに、ポスターを公共施設や商業施設へ掲示した。

千葉市は2019年に「機運醸成等活動事業補助金」を設けて、市民団体や学生団体等が自主的に実施する大会機運醸成などを支援し、地元での大会開催を盛り上げる活動を支援した。



「みんなのスポーツ展」



京成バスのラッピングおよび車内ジャック広告

一宮町における機運醸成の取り組み

2016年12月、東京2020大会のサーフィン会場が釣ヶ崎海岸に決定したことを受け、サーフィンを軸に町の魅力を発信するPR動画「SEE YOU IN THE WATER!」の上映をウェブサイト「サーフィンと生きる町。」や庁舎内等で開始した。

2017年4月以降、町内の街路灯へのオリンピックエンブレムフラッグの掲出や「おもてなしの心」を伝えるポスターの掲示を行うなど、町ぐるみで開催地としての機運を高めてきた。

また、サーフィン競技の普及のために、サーフィンの基本知識やルールなどをわかりやすく紹介するチラシ「ICHINOMIYA SURFING」を作成し、町民や各種イベント来場者に配布したほか、カウントダウンイベントなどの場で選手のトークショーや競技体験会を積極的に行ってきた。

さらに、同年9月には「一宮町東京オリンピックサーフィン競技連絡協議会」、2018年1月には「長生郡市・夷隅郡市サーフィン競技応援連絡協議会」を設置。関係団体と大会関連情報を共有することで、



街路灯に掲出したオリンピックエンブレムフラッグ



町役場庁舎の懸垂幕



オリンピックエンブレム入りのサーフボードとカウントダウンボード



おもてなしポスター



国道128号線沿いに設置した看板



オーストラリア代表選手と東浪見小学校の児童との交流会



オーストラリア代表選手も参加した釣ヶ崎海岸でのビーチクリーン

大会の開催機運の醸成に向け、地域全体での連携の強化を図った。

2019年3月には、サーフィン競技をより身近に感じてもらうため、オリンピックエンブレム入りのサーフボードを製作し、庁舎入口にカウントダウンボードと併せて展示した。同年9月には宮崎県で行われたサーフィン世界大会に先立って来訪したオーストラリア代表選手と一宮町立東浪見小学校の児童との交流会を開催。終了後には釣ヶ崎海岸でビーチクリーンを行った。同年11月には国道128号線沿いに、2020年3月にはJR上総一ノ宮駅東口にオリンピックエンブレム等の看板を設置するなど、大会への機運の醸成に取り組んだ。

チバミュージアムフェスタ2020

2019年8月から2021年8月にかけて、千葉県教育委員会は県立美術館・博物館の合同企画による「チバミュージアムフェスタ2020」として『『オリンピック・パラリンピック』と千葉のスポーツ史』と千葉のスポーツ史』のパネル巡回展示を実施した（東京2020公認文化オリンピックアード）。

千葉県ゆかりの人々の活躍を中心に、オリンピック・パラリンピックと千葉県における近代スポーツのあゆみ、現代のスポーツ競技を支える県内企業の技術についても紹介した。



千葉県立中央博物館での展示の様子





市町村における機運醸成の取り組み

千葉県内の市町村では、東京2020大会に向け、1964年大会で使用された物品の展示やアスリートとの交流、競技体験等を通じ、機運醸成やスポーツ振興を図った。



1964年東京オリンピック体操あん馬のメダリストの対談
(松戸市、2019年)

1964年東京オリンピック体操あん馬の金メダリストミロスラフ・ツェラルさん（スロベニア出身）と銀メダリスト鶴見修治さんによる対談が、同大会で使用されたセノー（株）（松戸市）製のあん馬の前で内閣官房主催により行われた。ツェラルさんからは「友人の鶴見さんに会えて、湧き上がるものがある」、鶴見さんからは「一緒に演技したことを思い出して懐かしい」と再会を喜んだ。



大河ドラマ「いだてん」紹介展示（松戸市、2019年）

「いだてん」の主人公は、前半が明治時代に初めてオリンピックに出場した金栗四三（かなくり・しろう）、後半は1964年の東京オリンピック招致の立役者である田畑政治（たばた・まさじ）。田畑役を松戸市出身の俳優・阿部サダヲさんが演じた縁で、紹介展示を実施した。



習志野こどもしんぶん「オリンピック・パラリンピックがやってくる！号」
(習志野市、2019年)

市とNPO法人「ならしの子ども劇場」が協働して行った事業。子ども記者たちが、市内でトレーニングキャンプを行っていたオランダ水泳選手に取材を実施。レイアウトなどについて意見を出し合いながら作成された。



各種水球普及イベント（八千代市、2019年）

多くの水球女子日本代表選手を輩出している秀明大学とともに、東京オリンピックの正式種目となっている水球競技の普及イベント「プールで球技を楽しもう！」を開催。市内の小学1年生から6年生までの51人が参加し、水球男子日本代表キャプテンの大川慶悟選手や秀明大学水球部女子選手から競技指導を受け、アクアゲーム（ボールのパス・シュート、ミニゲームなど）を楽しんだ。



もばら夏まつりで東京五輪音頭-2020-
(茂原市、2019年)

茂原市では、「東京五輪音頭-2020-練習会」を実施して東京2020応援プログラム認証の「もばら夏まつり」で踊り、まつり当日や練習会の動画を公開した。



「感動再び！東京オリンピック展」
(香取市、2021年)

東京2020大会で使用される聖火リレートーチ巡回展、東京1964大会で聖火リレーの伴走を務めた「オリンピックカー」のほか、東京1964大会の聖火リレーでの貴重な資料を展示した。



「東京1964大会金メダリスト 桜井孝雄展」(香取市、2021年)

東京1964大会ボクシングバンタム級で金メダルを獲得した香取市出身の桜井孝雄さんの金メダルやボクシンググローブ、ボクシングシューズのほか、オリンピック公式ブレザーなどを展示した。



ゆかりのオリンピック・パラリンピアン
の紹介展示
(銚子市、2020年)

銚子市ゆかりのオリンピック山口東一さん（1964年東京大会1500m出場）、加藤友里恵さん（2016年リオデジャネイロ大会トライアスロン出場）や、パラリンピアン渡邊紫帆さん（2012年ロンドン大会走幅跳、円盤投、100m出場）の大会当時の写真やユニフォーム、寄書きなどを銚子市役所1階において展示した。

国際大会による地域活性化の取り組み

国際大会は、地域のイメージアップを図る絶好の機会であり、地域スポーツのレベルアップや施設の有効活用、さらに交流人口の増加による地域の活性化につながることを期待される。そのため千葉県や県内の市町村、各競技団体は、東京2020大会の機運醸成や大会運営の検証等を行うとともに、県内のスポーツ振興や魅力発信、地域の活性化につなげるため、東京2020大会において県内で開催される競技の国際大会を開催。また、県内学校の児童・生徒を対象に国際大会の観戦事業を実施し、県内開催競技への理解や関心を高めた。

WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN 2016～2019（サーフィン国際大会一宮千葉オープン）

九十九里浜には日本有数のサーフポイントが点在しているが、中でも九十九里浜の南端に位置する一宮町は「サーフタウン」として名高く、初心者からプロまで、レベルやスタイルに合わせて選べるサーフポイントが多数存在している。多彩なサーフポイ

ントの一つが、東京2020大会のサーフィン会場となった釣ヶ崎海岸、通称「志田下^{しだした}」である。

釣ヶ崎海岸では、2016年から2019年までの4年間、日本最大のサーフィン国際大会WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN（一宮千葉オープン）が開催された（4～5月の7日間）。QS（クオリファイニングシリーズ）は世界中で開催されているが、6000グレード（メンズ）は、世界プロサーフィン連盟WSL（World Surf League）が認める最も高い格付けの大会（2019年当時）で、20カ国・200人以上の世界のトッププロサーファーが集結し、最高グレードのチャンピオンシップツアー入りを目指して競い合う。2017年、2018年には一宮海岸広場で、大会に併せ、渚のファーマーズマーケットが開催された。

この大会は、千葉県と一宮町、いすみ市が東京2020大会サーフィン競技会場の誘致活動を展開する中でスタートし、その成果もあり、2016年12月、釣ヶ崎海岸が東京2020大会の会場に決定した。2018年の大会では、長生地域の小学生（一宮町立東浪見小学校、長柄町立長柄小学校、長柄町立日吉



WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN（2017年）



表彰式では玉前神社の神輿が展示された（2018年）



サーフィン教室（WSL QS6000見学会、2018年）

小学校、長南町立長南小学校、睦沢町立睦沢小学校の主に6年生を対象にサーフィン教室（国際大会WSL QS6000見学会）を実施。5校合計で約210人が参加し、一宮町サーフィン業組合所属の講師からサーフィンのルールや技の種類等について説明を受けた。

また、2019年5月にはWSL QS6000に続いてサーフィン日本一を決定する第1回ジャパンオープンオブサーフィン（日本サーフィン連盟主催）も行われ、翌2020年11月に開催された第2回ジャパンオープンオブサーフィンでは地元一宮町出身の大原洋人選手が優勝した。

釣ヶ崎海岸は約1,200年前から続く「上総十二社祭り」の場で、海岸には、町名の由来ともなった、平安時代創建の「上総国一宮・玉前神社」の鳥居が



大原洋人選手（2019年）



稲葉玲王選手（2019年）

建つ。鳥居から海を眺める展望は、外国人観光客も驚く絶景となっている。上総十二社祭りの波打ち際を大きな掛け声とともに神輿を担いで走る「潮踏み」の姿は勇壮で、観光客も数多く訪れる。



選手がエスコートキッズとともに入場



ゴールボール体験会（ゴールボールジャパンメンズオープン）



天皇陛下御在位三十年記念 2019 ジャパンパラゴールボール競技大会

2018 Goalball Japan Men's Open（ゴールボールジャパンメンズオープン）

2018年1月、佐倉市民体育館でゴールボールの国際大会が開催され、日本、ベルギー、タイ、オーストラリア、韓国が参戦し、世界ランキング10位のベルギーが優勝した。

大会では、佐倉市の子どもたちがエスコートキッズ、千葉県国際交流センターの語学ボランティアが場内アナウンスや通訳、順天堂大学スポーツ健康科学部の「障がい者スポーツ同好会」を中心とした大学院生・学部生がボランティアスタッフとして参加した。また、ゴールボールの普及促進のための体験会も併せて実施された。

2019 ジャパンパラゴールボール競技大会

千葉市では、2017年からジャパンパラゴールボ

ール競技大会が開催されており、千葉県と共に競技への理解促進に取り組んできた。ゴールボールは、2012年ロンドンパラリンピック競技大会において、日本女子代表が金メダルを獲得した競技である。

2019年2月、「天皇陛下御在位三十年記念2019ジャパンパラゴールボール競技大会」（女子）が千葉ポートアリーナで開催され、世界ランキング1位のブラジル、同2位のトルコ、同6位のアメリカに、同4位の日本を加えた4カ国が参加した。日本は強豪国との激戦を制して決勝に進出したが、トルコに敗れ準優勝であった。

同年9月には、東京2020大会のテスト大会として「天皇陛下御即位記念 2019ジャパンパラゴールボール競技大会」（女子）が幕張メッセで開催。試合の間には、県立幕張総合高校ダンス部やきみつ少年少女合唱団が応援パフォーマンスを行った。大会



優勝した女子代表と3位となった男子代表（2019 IBSAゴールボールアジアパシフィック選手権大会 in 千葉）



シットティングバレーボールチャレンジマッチ 2019

には世界ランキング3位のブラジル、同5位のアメリカが参加し、日本のA・B 2チームを加えた4チームで総当たり戦が実施され、日本Aとの決勝を制したアメリカが優勝した。

2019 IBSAゴールボールアジアパシフィック選手権大会 in 千葉

2019年12月には、東京2020大会の予選として「2019 IBSAゴールボールアジアパシフィック選手権大会 in 千葉」が千葉ポートアリーナで開催され、アジアパシフィック地域の国際視覚障害者スポーツ連盟（IBSA）加盟国のチームが千葉ポートアリーナに集結。女子は日本代表が優勝し、男子は日本代表が3位の成績を収めた。日本代表は既に開催国枠で出場権を獲得していたため、女子では準優勝した

中国が東京2020大会の出場権を獲得した。また、県内の児童・生徒約4,800人が大会を観戦した。

シットティングバレーボールチャレンジマッチ2019

2019年5月、日本、中国、カナダ、イタリアの女子代表チームによる国際親善試合「シットティングバレーボールチャレンジマッチ2019」が千葉ポートアリーナで開催された。シットティングバレーボールの国際大会が千葉市で開かれたのは初めてのことであり、出場した4チームとも東京2020大会への出場が見込まれていたチームであった。優勝した中国は東京2020大会で銀メダルを獲得した。この大会では、市立習志野高校吹奏楽部の生徒たちが、演奏に加え、手拍子と声による応援を行った。また、県内の児童・生徒約1,800人が大会を観戦した。



SITE PUBLIS Presents アジアフェンシング選手権大会2019

海外メディア贈呈用に製作した千葉県PR動画のDVD
 (2019 IBSAゴールボールアジアパシフィック選手権大会、千葉2019ワールドテコンドーグランプリ、2019年女子レスリングワールドカップ成田大会)



SITE PUBLIS Presents アジアフェンシング選手権大会2019

2019年6月には、「SITE PUBLIS Presents アジアフェンシング選手権大会2019」が千葉ポートアリーナで開催され、男女全種目の個人戦・団体戦が実施された。この大会は、アジア・オセアニア地域より約30の国・地域の選手が参加する地域最高位の大会であり、東京2020大会、特に団体戦出場枠の確保に向けても重要な大会であった。決勝戦ではLEDによる演出、場内FMラジオでの特別解説が行われ、男子フルーレ団体では日本が優勝を果たした。また、県内の児童・生徒約2,100人が観戦した。

2019年12月には、東京2020大会の運営能力を高めることなどを目的としたテスト大会として、東

京2020大会のフェンシング競技会場と同じ幕張メッセで、「高円宮杯 JAL PRESENTS FENCING WORLD CUP 2019」が開催された。世界中から各国を代表する約200人の選手が出場し、男子フルーレの個人戦・団体戦が行われ、大会運営にあたっての検証の場ともなった。

東京2020大会開催1年前を迎えた2019年度には、このほかにも県内でプレ大会等の開催が本格化。千葉県では、この機会を捉え、大会機運を醸成するとともに国内外から県への関心を高めるため、幕張メッセ、釣ヶ崎海岸をはじめとする県の魅力を発信するプロモーション動画を制作し、各会場で映写した(p.240参照)。



千葉2019ワールドテコンドーグランプリ



県内の子どもたちを対象に開催したレスリング教室
(2019年女子レスリングワールドカップ成田大会)



表彰式 (2019年女子レスリングワールドカップ成田大会)

Chiba 2019 World Taekwondo Grand-Prix (千葉2019ワールドテコンドーグランプリ)

2019年9月には、千葉ポートアリーナで「千葉2019ワールドテコンドーグランプリ」が開催された。約50の国と地域から約250人の強豪選手が出場するテコンドーの世界大会で、オリンピックと同様に男女各4階級を実施。ランキング上位選手が招待されて行われるグランプリシリーズは日本で初の開催であった。自国開催枠で出場した鈴木リカ選手(男子68kg級)は2回戦で敗退となった。

この大会では、市原市にキャンパスのある帝京平成大学の健康医療スポーツ学部の学生が運営ボランティアとして参加。また、県内の児童・生徒約1,100人が観戦した。

2019年女子レスリングワールドカップ成田大会

2019年11月、同年9月の世界選手権の国別対抗得点上位8カ国のうち6カ国が成田市の中台運動公園体育館に集結し、2019年女子ワールドカップ(国別対抗戦)が開催された。50kg級で松戸市出身の須崎優衣選手がテクニカルフォールで快勝して弾みをつけ、日本がアメリカを下して5大会連続11度目の優勝を果たした。

この大会の開会式では、県立成田国際高校ダンス部がオープニングアクトに登場。レスリングマットの上でダンスパフォーマンスを披露した。また大会の初日には、レスリング教室が開催され、県内のレスリングクラブの子どもたちが参加した。

3

文化プログラム関連イベント等の開催と文化振興

オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であると同時に「文化」の祭典でもある。東京2020大会は日本文化の魅力を世界に発信する絶好の機会であり、開催地となる千葉県でも文化プログラムを実施し、ちばの文化力向上と文化芸術による地域の活性化を図ることとした。

文化プログラムの枠組みには「東京2020文化オリンピックアード」と「beyond2020プログラム」があり、千葉県は、beyond2020プログラムの認証組織の一つとなった。

文化プログラムの実施にあたり、県では、①県民参加、②多様性、③ちばの魅力を発信、④未来への継承の4つを事業実施の基本方針とし、『県民の日』中央行事（県民の日ちばワクワクフェスタ）「千葉・県民音楽祭」「ちばアート祭」等の事業に取り組んだ。

「県民の日」中央行事

（県民の日ちばワクワクフェスタ）

千葉県は1984年に県の人口が500万人を突破したことを記念し、「県民が、郷土を知り、ふるさと

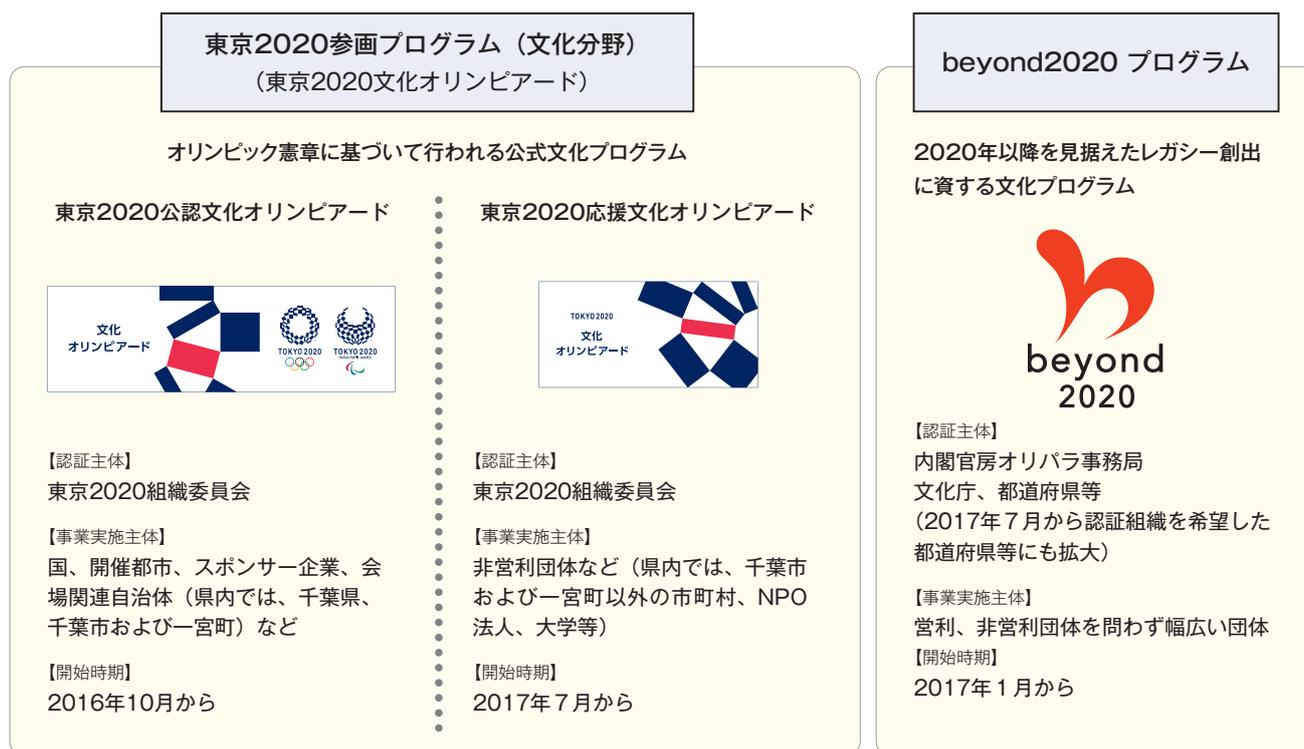
を愛する心をはぐくみ、共に次代に誇りうる、より豊かな千葉県を築くことを期する日」として、6月15日を「県民の日」に制定した。これは、1873（明治6）年6月15日に木更津県、印旛県の両県が合併して千葉県が誕生したことに由来している。

千葉県では、県民の日を記念して、千葉の魅力を再発見し、ふるさと千葉への愛着を深めることができるよう、例年6月15日前後に幕張メッセで参加体験型イベントとして、「県民の日」中央行事（県民の日ちばワクワクフェスタ）を開催している。

このイベントでは、千葉の多彩な魅力を発信するため、県内で活躍する団体や千葉県ゆかりのアーティスト等によるステージ、各種体験コーナー、市町村等の特産品等の販売、千葉県産品を使用した料理等の提供を行っているが、東京2020大会の競技が同じ幕張メッセを会場に開催されることから、大会開催に向けた機運醸成のため、2016年度から競技の紹介や体験を実施してきた。

また、県が実施する文化プログラムと連携し、オリンピック・パラリンピックが文化の祭典でもある

◆ 東京2020組織委員会と国の文化プログラム





サーフィン体験でサーフボードに乗るチーバくん（2018年）



オリンピック・パラリンピック競技体験コーナー（2018年）



千葉・県民音楽祭PRコンサート（2021年）



メインステージでのパフォーマンス（2019年）

ことを印象づけるため、2017年度以降は、ステージプログラムとして、東京2020公認文化オリンピックアートの認証を受けた「千葉・県民音楽祭」PRコンサートを実施してきた。

このほか、文化プログラムとの連携として、2018年度は、会場で「ちば文化資産」^{▶1}の投票・パネル展示の実施、2019年度は、この「ちば文化資産」に選定された茂原七夕まつりの七夕飾りや、もばら阿波おどりの実演を行った。また、文化プログラムの一つである「ちばアート祭」のPRとして、デジタル技術を用いたアート作品の体験コーナーも設置した。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とし、2021年度もまだ感染が収束しな

い状況ではあったが、出演予定であった団体等の発表の場を確保するとともに、千葉の魅力発信のため、無観客ではあったが、当日のライブ映像と後日編集した動画をYouTube等で配信した。収録はステージプログラムを中心に出演者のインタビュー等も併せて行い、千葉・県民音楽祭PRコンサートや「ちば文化資産」である銚子はね太鼓のステージ等を紹介した。

▶1 多様で豊かなちば文化の魅力の特徴づけるモノやコト。伝統的なものに限定せず、現代建築や景観、イベント等さまざまなものが含まれている。



ちば文化資産の選定とちばアート祭

東京2020大会の機会を生かし、多くの県民に県の文化的魅力を再認識してもらい、次世代に継承していくため、2018年度に「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』」を県民参加により111件選定した。

また、この「ちば文化資産」を会場や作品のテーマとして活用し、世代や障害の有無を問わず、あらゆる人々が文化の担い手として参加・体験することができる県民参加型のイベントとして、絵画・写真公募作品展と屋外での作品展示を核とする「ちばアート祭」を2019年度から3カ年にわたり実施した。

東京2020大会開催年にデジタル技術を用いた作品展示を予定していたことから、初回となる「ちばアート祭2019」では、「ちば文化資産」をテーマとした絵画・写真の公募作品展に加え、県内に所在す

る大学の学生やプロのアーティストによるデジタル技術を用いた作品展示を行った。

「ちばアート祭2020」は、東京2020大会の延期および新型コロナウイルス感染症の影響により、絵画・写真公募作品展のみの実施となった。

「ちばアート祭2021」は、大会開催年の実施となることから、会場や内容の規模を拡大し実施することを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況であったため、感染防止対策が可能な内容のみとし、初回から続けてきた絵画・写真公募作品展のほか、千葉県ゆかりのアーティストによる屋外作品展示、世界的に活躍するアート集団「チームラボ」による屋外での作品展示を実施。制約がある状況での開催となったが、作品の応募者数および観覧者数は初回の2倍以上となり、多くの人に千葉県の文化的魅力に触れる機会を提供した。



ちばアート祭2020の展示の様子（県立美術館）

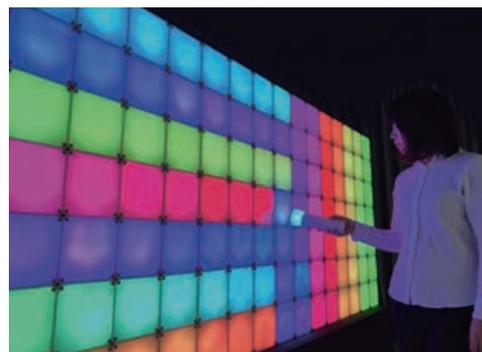


チームラボ「自立しつつも呼応する生命と呼応する木々」（2021年、千葉ポートパーク展望の丘）



左：戸鋪誠さん「空を眺めている人」（2019年、千葉ポートパーク円形広場）

右：城西国際大学メディア学部「pixcol（ピコル）」（2019年）



左：大川友希さん「記憶のかたち」（2021年）

右：中村岳さん「遡及空間（そきゅうくわかん）」（2021年）

千葉・県民音楽祭

文化プログラムの実施にあたっては、多くの県民がさまざまな分野の事業・イベントを、観るだけでなく、文化の担い手として参加し、交流できることが重要である。そこで千葉県では、2017年度から2021年度まで、県民とプロのオーケストラ等による市民参加型コンサート「千葉・県民音楽祭」を開催した。

東京2020大会の開催年まで年々内容を充実させ盛り上げていくことを目指し、ダンス・和楽器演奏など、公演内容に幅広い音楽ジャンルを追加していくとともに、公募のジャンルも徐々に拡大していった。また、障害の有無にかかわらず多くの人が参加して音楽を楽しめるよう、音楽活動を行う障害者団体のステージや、障害のあるプロのアーティストが演奏やダンス等を披露するステージを設け、音楽を通じた共生社会の実現を目的に取り組んだ。

千葉県は音楽祭の開催に向け、県内のプロオーケストラ「千葉交響楽団」と一緒に演奏したい人や共演したい団体等を公募。オーディションで出演が決定した楽器演奏者は千葉交響楽団の楽団員の指導のもとで練習を行った。選考会で選ばれた参加団体なども練習を積み重ね、本番で演奏やパフォーマンス

を披露した。

さらに「左手のピアニスト」として第一線で活躍している舘野泉さんや、視覚障害がありながらも国内外で活躍しているヴァイオリニスト川島成道さんのほか、県内出身の若手アーティストである石田真奈美さん（箏）、實川飛鳥さん（ピアノ）などの多彩なゲストを迎え、プロ・アマチュアの違いや障害の有無などにかかわらず、多様な音楽により皆でステージをつくりあげ、千葉の文化の魅力を発信した。

また、大会競技のPRとして、千葉県フェンシング協会や千葉県テコンドー協会が、県内開催競技であるフェンシングとテコンドーの解説やデモンストレーションなどを行った。さらに、オーケストラ楽器展示・体験、和楽器体験、VRフェンシング体験、車いすフェンシング体験、VRサーフィン体験、サーフィンフォトスポット（トリックアート）、北総四都市江戸紀行・ちば文化資産の紹介展示などを行った。

なお、本事業は「東京2020公認文化オリンピック」の認証を取得した上で実施。また、集大成となる2021年の公演は、東京2020組織委員会と共催する「東京2020 NIPPONフェスティバル共催プログラム」に採択された（詳細についてはp.210参照）。



公募によるオーディションの様子（2019年）



演奏の練習会（2019年）



車いすフェンシング体験（2019年）



VRサーフィン体験（2019年）



ダウン症のある子と親の会ジュピターによる演技(上)
 ジュニアコーラス フェアリーズによる合唱(左下)
 義足のプロダンサー大前光市さん(右下)

千葉・県民音楽祭2021

世界に響け!

みんなで作るハーモニー

2021年6月20日、「千葉・県民音楽祭 世界に響け! みんなで作るハーモニー~世界を巡る音楽の旅vol.3~」が千葉県文化会館で開催された。千葉交響楽団の音楽監督で指揮者である山下一史さんによる指揮のもと、公募により選ばれた楽器演奏者が千葉交響楽団と共にオリンピック・パラリンピックにちなんだ楽曲等を披露。県内で活動する合唱団体、障害者団体、ダンス団体がパフォーマンスを披露し、

日頃の練習や活動の成果を十分に発揮し、ステージを盛り上げた。

また、義足のプロダンサー大前光市さんや県内出身の若手アーティストである西村悟さん(声楽)、望月太左乃(佐野友紀)さん(邦楽囃子方)のほか、プロダンサー北尾亘さんなどの多彩なゲストが登場し、素晴らしいステージで観客を魅了した。



邦楽囃子を披露する望月太左乃(佐野友紀)さん(前列左から1人目)



声楽家の西村悟さん



山下一史さん

一緒に演奏し、歌い、踊り、一つになる この喜びを大切にしたい

千葉交響楽団 音楽監督・指揮者
やましたかすみ
山下一史さん

千葉・県民音楽祭への参加は3回目です。音楽は、世代、言語、宗教、イデオロギー、あらゆるギャップを乗り越え、人と人をつなぐことができます。メロディをすべての人たちと共有できる、素晴らしい瞬間です。千葉交響楽団は「おらがまちのオーケストラ」として、県民に近い存在になりたいと活動しています。クラシックは敷居が高いと思われがちですが、共演すれば考えは変わります。プロと一緒に準備しリハに参加して、さまざまなプロセスを経て本番を迎える。県民音楽祭は理想的な場です。立場を超え、一緒に演奏し、歌い、踊り、一つになる。回を重ねるごとに皆さんとの距離が縮まっていく、この喜びを大切にしたい。

音楽監督として、定期コンサートなどのほかに、幼稚園や特別支援学校、小・中学校への訪問演奏会を行っています。子どもたちにとって一生に一度のオーケストラの演奏会かもしれないと思うと、絶対に手を抜けない。毎回、汗だくの真剣勝負です。昨年、念願の「千葉交響楽団を応援する会」が発足しました。コロナ禍において我々の心の支えになっています。プロのオーケストラとして何ができるか考え、チャンスがあればいろいろな場所でたくさんのコンサートを開きたいと思っています。



滝口順子さん

大舞台での経験が 子どもたちの“しなやかな心”を育む

ダウン症のある子と親の会ジュピター 代表
たきぐちしゅんこ
滝口順子さん

今回練習のために久々に集まって、お互いの気持ちや声、温もり、息吹を感じるには、対面することが一番なんだと改めて実感できましたね。大きい舞台でプロのオーケストラが演奏する中での本番でしたから、皆かなり緊張していました。でも、彼らは本番に強いんです。120%の力を出してくれました！終わった後はぐったりしていましたがね（笑）。でも、こういった経験が子どもたちの自信となって、将来社会に出たときに嫌なことがあっても、ちょっとやそっとじゃ折れない“しなやかな心”が育まれるのだと思います。

また、社会の大多数は普通に生活していくことが可能な方ですが、一方で何らかのハンデがあり、援助や配慮が必要な方もいます。そのことを理解してもらうには、理屈ではなく、一緒にいる、一緒に何かをやるということが重要です。年齢、性別、それこそ障害の有無に関係なくできるのは文化芸術だからこそですので、さまざまな方が参加できる場を社会がつくっていく必要があると思います。



プロダンサーの北尾亘さん



フィナーレ



佐倉市 石高150石の武家屋敷 (旧但馬家住宅)



成田市 参拝客で賑わう成田山新勝寺の参道



香取市 佐原の山車行事 (左) と伊能忠敬旧宅 (右)



香取市佐原伝統的建造物群保存地区



銚子市 漁港がある外川地区の町並み

「北総四都市江戸紀行」日本遺産に認定

「日本遺産」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、魅力ある有形・無形の文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することによって、地域の活性化を図ることを目的としている。千葉県は、東京2020大会開催を意識し、文化遺産を生かして県の魅力を国内外に発信するため、佐倉市・成田市・香取市・銚子市を舞台にしたストーリー「北総四都市江戸紀

行・江戸を感じる北総の町並み」を、4市とともに2016年に文化庁へ「日本遺産」認定を申請し、同年4月に認定された。

北総地域は、当時、百万人の人口を有したと言われる大都市江戸に隣接し、関東平野と豊かな漁場の太平洋を背景に、利根川の水運と江戸に続く街道を利用して江戸に東国の物産を供給し、江戸の暮らしや経済を支えた。こうした中、江戸の文化を取り入れることにより、城下町の「佐倉」、成田山の門前町である「成田」、利根水運の河岸、香取神宮にお



市町村における文化振興

千葉県内の市町村では、東京2020大会を契機にさらなる文化振興を図るため、市民と行政が一体となって市町村ごとに個性を生かした文化関連イベントを展開した。



千葉市 千の葉の芸術祭「生態系へのジャックイン展」(2021年)
千葉市初の芸術祭「千の葉の芸術祭」の一つとして開催。幕張新都心で活動するリサーチプロジェクト「METACITY」と連携し、幕張海浜公園日本庭園「見浜園」を会場として、光を使ったインスタレーション（展示空間全体をアート作品として表現すること）や回遊式のエキシビションなどを展開した。



匝瑳市 飯高檀林コンサート (2018年)
[beyond2020プログラム事業]
国の重要文化財である飯高寺（飯高檀林跡）の講堂を舞台に芸術文化の振興と文化財保護の啓発を目的として、ドイツ在住の日本人ソプラノ歌手・ピアニストとマンダリニストによるコンサートを開催した。



匝瑳市 八重垣神社祇園祭「神輿連合渡御」(2019年)
[東京2020参画プログラム事業]
神輿連合渡御では、10町内から集まった20基ほどの神輿と囃子連が延々と連なり、笛と太鼓の軽快な囃子に合わせ、「あんりゃあどした」という威勢のいい掛け声で市街を練り歩く。神輿の行列に冷水を浴びせかけるのもこの祭りの特徴。



四街道市 市民文化祭 (2019年)
[beyond2020プログラム事業]
四街道市民文化祭実行委員会に所属している各団体を中心となり、「展示部門」「芸能部門」「各種文化行事」に分かれて、市民の文化活動の成果を発表。また、県立四街道特別支援学校や県立千葉盲学校と連携して「児童生徒作品展」を開催し、障害の有無にかかわらず市内小・中学校の児童・生徒の情操教育の成果を発表している。

ける参道の起点となる「佐原」、漁港・港町、そして磯巡りの観光客で賑わった「銚子」という4つの特色ある都市が発展した。これら四都市では、江戸庶民も訪れた町並みや風景が残り、いまま東京近郊にありながら江戸情緒を感じることができる。成田空港からも近いこれらの都市は、世界から一番近い「江戸」である。

2016年5月には、関係団体の連携強化を図りながら、これらの歴史的資源を有効活用するため、関係自治体を中心に「日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会」を設立。同協議会では、地域活性化および観光振興に資するようPRイベントを開催するなど、北総四都市のブランド力強化と魅力発信に取り組んでいる。



銚子はね太鼓保存会によるはね太鼓演奏

感動を再び！ 「ARIGATO TOKYO 2020」 フェスティバル

千葉県は2021年11月、東京2020大会の感動を再び味わうとともに、千葉の文化・芸術の魅力を再発見できるイベントとして『「セレブレーション」に出演予定だった団体等による発表及びコンサート』～感動を再び！『ARIGATO TOKYO 2020』フェスティバル～を千葉県文化会館で開催した。

千葉交響楽団によるファンファーレによって幕を開け、熊谷俊人知事が「オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であるとともに文化の祭典。千葉県の文化・パフォーマンスを見てもらおうと何年もかけて準備したが、かなわなかった。それらを2021年以降に生かして受け継いでいくことで、千葉の活力にしたい。その一つが場がARIGATO TOKYO 2020フェスティバルになる」とあいさつした。

フェスティバルでは、聖火リレーのセレブレーション

等に出演予定だった団体によるパフォーマンスや大会にちなんだ楽曲のコンサートなどを実施。併せて、東京2020大会に出場した船橋市出身のオリンピック体操競技団体銀メダリスト・谷川航選手と四街道市出身のパラリンピック5人制サッカー（ブラインドサッカー）代表・佐々木康裕選手へのインタビュー、オール千葉おもてなし隊トークショー&ミニライブなどが行われ、約1,000人が観覧した。



千葉交響楽団によるファンファーレ

千葉県からブラインドサッカーを盛り上げていきたい

東京 2020 パラリンピック 5 人制サッカー日本代表

さ さ き や す ひ ろ
佐々木康裕選手 (四街道市出身)

ブラインドサッカーを始めて18年になりますが、パラリンピックに出場したのは東京2020大会が初めてです。私は四街道市出身で、ずっと千葉県で育ってきました。娘が通う幼稚園、小学校における「出場おめでとうございます」といった張り出しや、近所の皆さんからの「頑張ってください」「テレビで観ました」といった声掛けが励みになり、パラリンピックを頑張ることができました。

ブラインドサッカーはキーパー以外の選手がアイマスクをして行うサッカーであり、天気や湿度、風向き等によって、音の聞こえ方や距離感、ボールタッチの感覚等が変わってきますので、試合前には必ずそれらを確認するようにしています。大会ではメダルが取れず、また、私自身の出場時間が短かったので悔いが残りましたが、今後も国際大会に選手として出場できるよう努めるとともに、所属している千葉のチームを強くすることや普及活動に力を入れ、千葉県からブラインドサッカーを盛り上げていきたいと思っています。



インタビューに答える谷川選手(左)と佐々木選手(右)

セレブレーション等に出演を予定していた団体によるパフォーマンス



木更津総合高校吹奏楽部によるヤングマンの演奏



松戸商工会議所女性会・小金原9丁目太鼓による「東京五輪音頭-2020-」



日本バトン協会関東支部によるバトン演技



ひびき連合会による銚子大漁節



「おもてなCポーズ」をとるオール千葉おもてなし隊オビニオンリーダー
左から岡田ロビン翔子さん、鈴木愛理さん、鍛冶島彩さん



来場者を見送る都市ボランティア